

学校教育目標：よりよく生きぬく力《たくましい子・考える子・思いやる子》

釜小だより

瑞浪市立釜戸小学校 学校だより NO4
令和5年 6月30日(金)
7月号 校長 山田 隆二

地域の力によって子供たちは守られ、成長する

令和5年度が始まり3か月が過ぎようとしています。市内の校長先生方からは「釜戸はコミスクが充実しているいいね」「地域の方の多くが子供のためなら…思ってくださいているよ」等、さまざまな声をお聞きます。「たしかに！」そう感じる事が多くあります。

コミスクの皆さんのおかげで、地域の方をたくさん学校にお招きすることができます。そうすることによって、子供たちは、本物を見たり、触ったりすることができます。その「本物」とは。ある時は和太鼓集団「志多ら(しだら)」の皆さんの演奏(裏面)であったり、ある時は畑で夏野菜を育てる技(わざ)であったりします。また、野菜の苗を植えるときに、よりよく根付く技(わざ)であったり、木を使ってかわいい置物を作る技(わざ)であったりします。

私たち教職員は教科を指導したり、生き方を指導したりします。その面では「プロ」でも、畑作業や和太鼓打ち、花の苗植え等については素人です。そのような教職員を助けてくださる方々(別の面での)

「プロ」がいっちゃうのは本当に心強いことです。また、地域に目を向けてみても、通学班で子供たちが安全に登下校することができるように見守ってくださる皆様、校外学習で地域にでかけたときにサポートしてくださる皆様方がいてくださることによって、子供たちの安全が守られ、安心して子供たちが学校生活を送ることができます。

先日も町屋コミュニティの敷地から桜の枝が道路の方へ張り出している様子を目にしました。きっと春には花を付け、きれいに咲き誇るのだらうなと思いましたが、よく見ると「子供たちが学校から家に帰るとき右側歩行をすると、高さ的に歩行の妨げになりはしないか」と思いました。翌日、雨が降っていましたが、傘をさして帰る何人かが、張り出した枝を避けるために道の真ん中を歩く姿がありました。釜戸公民館長さんに相談をすると、「町屋の区長さんに相談してはどうか」ということでした。「ただ、桜の枝を下手に切ると翌年花が咲かないことがある」と思ったのでとても迷いました。そのこともふくめて、町屋の区長さんに相談をすると、「子供の安全が第一です！」とおっしゃり、あっという間に道路に張り出した枝は切られていました。子供たちには、登校するときに、その経緯を伝え、「釜戸の方は本当にみんなの安全を守ってくださっているね」と確認しました。

また、大湫の方々も、交通安全教室にきてくださったり、モンシロチョウの卵の付いたキャベツを届けてくださったりするのも「釜戸小に通う子供たち」を大切に思ってくださいるからこそそのことと思います。



1年生の木工作品



道に張り出した枝



安全確保のために…

子供たちには、このような支えがあって楽しく安全な学校生活を送れていること、「プロによる本物」を見て、触れて、感じるにより、憧れをもつことの意味を伝えていきたいと思えます。

今後もコミスクの活動は続きます。本物に触れる機会があることでしょう。また、子供たちは地域で生活をします。そんなときにもどこかで安全が確保されていくでしょう。私たち学校や保護者はそれが「当たり前ではない」ということを肝に命じるとともに、感謝の気持ちを忘れないようにしていきます。地域の皆様、今までありがとうございました。そして、今後ともよろしく願います。